

『米西海岸サンフランシスコから アメリカン・ドリームの街ラスベガスと 世界遺産グランド・キャニオンを観に行く！』



世界遺産 グランド・キャニオン(アリゾナ州)

霧と坂とケーブルカーの街サンフランシスコは、全米の中でも最も東洋系の人々が活躍する街です。道行く車も半数が日本車。違和感がありません。ラスベガスは一転してアメリカ人の夢の街。全米から人が集まります。そしてグランド・キャニオンは、これぞアメリカの風景です。日本人が泊まって安心の二つのハイグレードホテルを利用しご案内します。

1 日目

サンフランシスコに向かいます。

【 成田空港国際線ターミナル 】

成田集合は 午後3時30分 の予定です。

集合場所は、成田国際空港 第1ターミナル 南ウイング 出発ロビー(4階)です。



(ユナイテッド航空 ボーイング 747-400)

使用機材が牽引されてきました。ユナイテッド航空 838 便のボーイング 747-400、ジャンボ機です。出発は 18:20 の予定で、飛行時間は約 9 時間 20 分です。サンフランシスコに着くと現地時間は同じ日の午前 10:40 ですが、体内時計では夜明けの 3:40 ですから時差ぼけ対策のためにも寝ておくのが一番です。機内食が 2 食出されます。

【 サンフランシスコ 】 (カリフォルニア州)



お疲れ様でした。サンフランシスコに到着すると、市内観光が始まります。バスでサンフランシスコ市内へ。

【 サンフランシスコ市内観光 】

お昼をノース・ビーチのイタリア人街で摂りますので、それをにらみながら市内観光をします。トイレ付きのバスでご案内します。

(1) ゴールデンゲート・ブリッジ（金門橋）



サンフランシスコの象徴の一つ、ゴールデンゲート・ブリッジ。赤い橋です。赤いのにゴールデンというのは、この海峡に先に「ゴールデン・ゲート海峡」と言う名前が付いてしまっていたからです。

大きすぎて遠近感がつかめません。対岸の山と比べてこの大きさ、高さ 227m 全長 2,737m はニューヨークのヴェラサノ・ナローズ橋ができるまでは世界一でした。ですからサンフランシスコっ子はこの橋を自慢にします。

(2) ツインピークス



ツインピークスは二つ並んだなだらかな丘にすぎないのですが、ここからサンフランシスコ全体が一望できます。海峡をバックに確かに雄大です。

トイレが一つしか無く、いつも並んでいるそうですので、バス内のトイレもご利用下さい。

(3) フィッシャーマンズ・ワーフ



ワーフは波止場のことです。漁師の波止場。漁師にはイタリア人が多く一番近くにイタリア人街ができ日本人街・中国人街・黒人街等様々な国の人々が集まって住んでいます。また食事・お土産品店が多く、他の観光地に近いなどの好条件が重なっていつも賑やかです。



これはアルカトラズ島。フィッシャーマンズ・ワーフから見えます。クリント・イーストウッドの映画「アルカトラズからの脱出」で有名な監獄島、ここに入ったら二度と出られないというところですが、今では人気の観光スポットになっています。歓楽街とこんなに近いのは囚人への見せしめのためだそうです。確かに向こうからこちらを見たら、二度と出られないわけですから悲しいでしょうね。それでは非人間的と言うことで、今では使われていません。



この建物は中央部分の駐車場にあります。お店の裏がトイレになっていますので覚えておくと便利です。



フィッシャーマンズ・ワーフのイタリア人街の中に「フィオール・ディタリア」があります。お昼を食べます。ホテルのレストランとして営業していますが、近隣のアメリカ人ビジネスマンが良くお昼を食べに来るそうです。日本人の舌にはパスタが柔らかいです。ご主人に言うと、「ああ、日本人はアルデンテが好きだったね。アメリカ人はとても柔らかいパスタが好きなんだよ。東京シティのお客様さんには本場イタリアのアルデンテで出すよ。」と引き受けてくれました。因みに店内にコックさんの木像がありますが、このご主人の像です。探してみてください。



パンに酸味があります。サンフランシスコ独特のフランスパン。イースト菌の違いで出る酸味と聞きました。同じサンフランシスコでもこれを出すレストランと普通のフランスパンを出すレストランがあります。ちょっと驚かれるかもしれません。

【 ホテル・ニッコー・サンフランシスコにチェックイン 】



ケーブルカーも走っているサンフランシスコ中心部に戻ってくると「ホテル・ニッコー・サンフランシスコ」にチェックインします。このホテルは日本航空系の「JALホテルズ」と呼ばれるホテルの一つで、サンフランシスコ中心部近く、メイソン通りとオフアレル通りの角にあります。「ユニオン・スクエア」とも2ブロックぐらいの距離でした。「ユニオン・スクエア」はクリスマスが近づくとよく日本のニュースでも取り上げられますが、スケート場の真ん中に大きなクリスマス・ツリーが飾られる、あの公園です。散歩の時に行って見て下さい。日本航空系と言っても日本語を話す職員は2名でしたが、その他の職員も丁寧な対応をしていました。

【 ステーキを食べに行くージョンズ・グリル 】



1日目の夕食はジョンズ・グリルのステーキです。これぞアメリカン・ディナーの代表。この店は創立が1908年ですから、107年続く老舗です。



実際に食事会場になる3階席の様子。2階までは居酒屋顔負けの大混雑かつ満席状態なので、階段を上がるご足労をおかけしますが、落ち着いた3階席で会食致します。



このサラダは、シーザーサラダです。ジョンズ・グリルのパンは酸味はありませんでした。



メインのビーフ・ステーキです。この写真は現地オリジナル・メニュー12オンス（340グラム）のもので、大きな横長ベイクド・ポテトも相まって日本人にはちょっと歯が立ちません。そこで東京シティのお客様向け専用レシピでご提供します。

それでも残った場合はテイク・アウト・ボックスと袋が用意されています。ウェイターにお申し出下さい。



三種のベリー類を添えたアイスクリームがデザートです。アメリカ人のアイスクリーム好きは有名ですね。季節によりフルーツが変わりますのであらかじめご了承ください。



ホテルには、歯ブラシがありません。ご持参下さい。スリッパとローブは用意されていました。シャワーとバスタブは独立していますので日本人にはありがたいところです。ホテル・ニッコーには冷蔵庫がありますが、中身が入っていません。必要な方は夕食の帰りにジョーンズ・グリルの近く「ユニクロ・サンフランシスコ」の隣に「ウォルグリーンズ」というスーパーがありますので買っておくのがいいと思います。日本のスナック菓子も置いてあります。



タバコには大変厳しい街で、建物内でタバコを吸えるところはありませんでした。ホテル周りで唯一吸えるところは1階正面玄関を左に行き、さらに左に曲がった奥（裏口を出て右側に当たります）のタクシーだまりの前です。石の灰皿スタンドが二つ置いてあります。吸い殻を捨てなければ、路上で吸っても許されるそうですから喫煙の方は携帯用灰皿が必需品です。

2日目

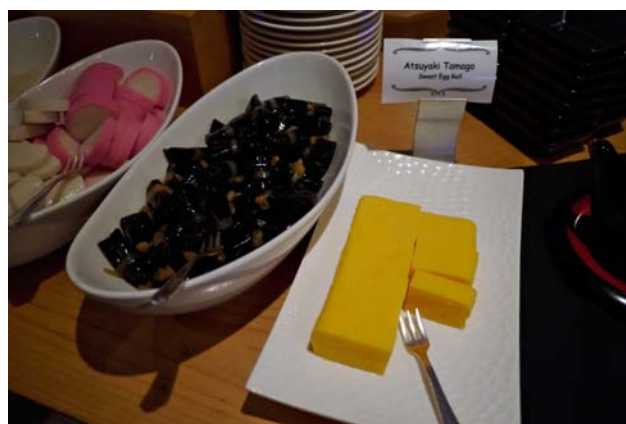
ナパでワイン・トレインに乗ります。

【 朝ご飯は日本食が食べられます 】

さすがに日系のホテルです。バイキング形式の日本式朝ご飯が食べられます。会場は2階のレストラン「アンズ」です。



(ご飯)



(昆布巻き・玉子)



(鮭の塩焼き)



(キュウリの漬物・小梅の梅干・沢庵・大根おろし・蒲鉾)



奥はお味噌汁、この見慣れたパックは納豆です。私はここで初めて白人の二十歳台の女性にご飯に納豆をかけて食べているのを見ました。日本食は本当にブームのようです。



もちろん、アメリカンスタイルも食べられます。
ルームナンバーとサインをお願いします。

【 バスでナパに向かう 】

バスでもう一つの大きな橋、白いベイ・ブリッジを渡ってナパに向かいます。海峡を渡って進んでいくと景色が明るくなって空気も温かくなってきます。

ナパ・バレーは谷と言うよりサンフランシスコの東北にある、左右を山に挟まれた長い長い低地です。ブドウ畑とワイナリーが切れ目無く並ぶ、カリフォルニアの人気スポットで、ここを訪れる人は年間470万人。実はディズニーランドに次ぐ人気の観光地です。日本ではヨーロッパ・ワインを嗜好しますが、アメリカでのカリフォルニア・ワインは、高級ワインの代名詞となっています。



ワイン・トレインです。長くて先頭が見えません。ワイン・トレインは現地では富裕層のレジャーです。待合室で待っている人々の構成を見ると白人層が圧倒的なのを見てもそれが感じられます。観光客も従業員もみんな笑顔を浮かべているのも、アメリカではあまり見られない光景です。みんなが楽しみにしているワイン・トレインです。



ワイン・トレインへのアプローチにぶら下がっている鍵は新婚さん達の「愛の誓い」です。鍵に二人の名前が書いてあり、ここに掛けて行ってしまうと誰も外せない。「二人の仲は誰にも邪魔されないわ!」という、いかにもアメリカ的明るさですが、もちろんいっぱいになると網が取り替えられます。新婚旅行のメッカでもあるんですね。



11:30 に出発します。速度は自転車ぐらいのゆっくりさ。ガーギッチ・ヒル駅折り返しで、往復 3 時間ほど乗車しますが降りません。お昼を食べるからです。上の写真は展望車です。伊豆急行のように外向きの座席でワインとオーダブルが出ます。ブドウ畑とワイナリーを眺めながら 100 年ほど前のデザインの列車は走ります。



チーズが濃厚でおいしいです。この細長いブドウは種なしで皮が付いたまま食べられます。



ダイニング・カーに移って食事です。料理はケリー・マクドナルドというシェフが監修していて日本人の舌にも合っています。



カボチャのスープ。サラダとの選択で、どちらかを選びます。



(ローストビーフ)



(ポークのテンダーロイン)



(チキンの胸肉)

メイン・ディッシュは、上の三種に魚料理とベジタリアン用の野菜料理の中から選ぶことができます。



(チョコレート・ケーキ)



(ブルーベリーのプリン)

デザートも数種の中から好きな物を選べます。コーヒーか紅茶が付きます。
14:30 降車予定、ワイナリー見学に出かけましょう。



「アーテッサ・ワイナリー」です。上質なワインとワイナリー自体がきれいで観光に堪えます。”ARTESA”はアートから来ている名前です。



試飲用ワイン。ワインリストを見ながらじっくりテイステイングをして下さい。周りを見ると日本のワイナリーでの

試飲より真剣な雰囲気です。時間もかけています。

アメリカは、名産品が少ない国です。お土産の代表はTシャツや帽子だったりします。そんな中で、カリフォルニア・ワインは本当に名産品ですからお土産によろしいと思います。欠点は瓶なので重いこと。手荷物持ち帰りの非課税上限が3本までであること。宅急便の送料も安くないことです。



ワイナリーの休憩スペースです。

【 フィッシャーマンズ・ワーフの「ピア 39」 】

サンフランシスコに戻ると夕食前の時間を使って、フィッシャーマンズ・ワーフの「ピア 39」を見て回ります。ピアは栈橋で、ピア 39 は「39 号栈橋」という意味ですが、お土産店が軒を連ねる賑やかな場所です。



ピア 39 の入り口です。この蟹の像が目印です。



「チョコレート・ヘブン」はチョコレートの専門店。名産が少ない中でチョコレートは、それぞれの地域に有力な会社があります。サンフランシスコは「ギラデリ・チョコレート」。そのギラデリのお店が「チョコレート・ヘブン」です。



お子様に人気の「ケーブルカー・チョコレート」。ただしチョコレートは屋根に積んである1コだけです。後ろに見える袋物のチョコレートが、リーズナブルな価格でお勧めです。



新鮮なカリフォルニアのフルーツ。残念ながら生鮮食品は、お土産にできません。



(アイ・ラブ・サンフランシスコ商品店)



(キャップは安い、500 円です。)



ジュエリー店「ナホク」。真珠がありました。地元ではリーズナブルな値段と言われているそうです。



好きな瓶に色とりどりの入浴塩を自分で詰める露店。私もやってみました。



「ピア 39」の人気者、シー・ライオン。このアザラシたちは迷い込んだ埠頭に住み着いてしまっているそうです。栈橋に台が組んであって間近に観察できます。



昼間は動きが鈍いので、見ている人たちを観察している方が楽しいかもしれません。

【 蟹を食べる 】

二日目の夕食は、ピア 39 の「スイス・ルイス」という店で焼き蟹を食べます。入り口の目印が蟹であった事からも、この店で蟹を食べるのが名物なんですね。



大きなワタリガニのようですが現地では「ダンジネス・クラブ」と呼びます。蟹というと我々はボイルして食べますが、こちらでは塩ニンニク漬けにしたあと、焼いて食べるようです。

甲羅は外してありますからこれを取り、足を全部もいであら胴体部分をナイフで縦に二つに切ると食べる準備ができます。くるみ割り鉄のような殻割り鉄が各自に配られますから、これで割りながら食べると教えてもらいました。手はべとべとになりますが楽に食べられます。

香ばしくてとてもおいしかったです。

3日目

空路ラスベガスに向かいます。

【 ラスベガスへ 】(ネバダ州)

朝食は昨日と同じレストラン「アンズ」で摂ります。朝食後荷物をまとめてサンフランシスコ空港へ移動します。飛行機利用なのでパスポートはすぐ出せるところへ。手荷物の中の液体は透明ビニール袋にまとめます。

ユナイテッド航空 358 便 10:56 発 使用機材はボーイング 737-800 です。



ラスベガス空港に降りると、もうそこにスロットマシンがあります。さすがアメリカ、徹底していますね。ラスベガス到着は12:38の予定。そろそろお昼ですね。



「ラスベガスへようこそ！」の看板なのですが、実はこの看板、登録文化財です。看板が登録文化財とは驚いてしまいますが、お国柄です。たくさんの人がこの看板の下で写真を撮っています。



あまり知られていない看板の裏側です。写真に撮っている人もいません。「運転に気をつけて、すぐに帰ってきて下さいね。」と書いてありますね。

「すぐに帰ってきて下さい」の部分が、観光に頼って維持されているラスベガスの事情を如実に語っていて、身につまされます。

昼食は「ハーバー・パレス」という中華飯店で飲茶を摂ります。



(リーフ・ブロッコリー)



(お粥)



(エビシュウマイ)



(胡麻団子)



(堅焼きそば)

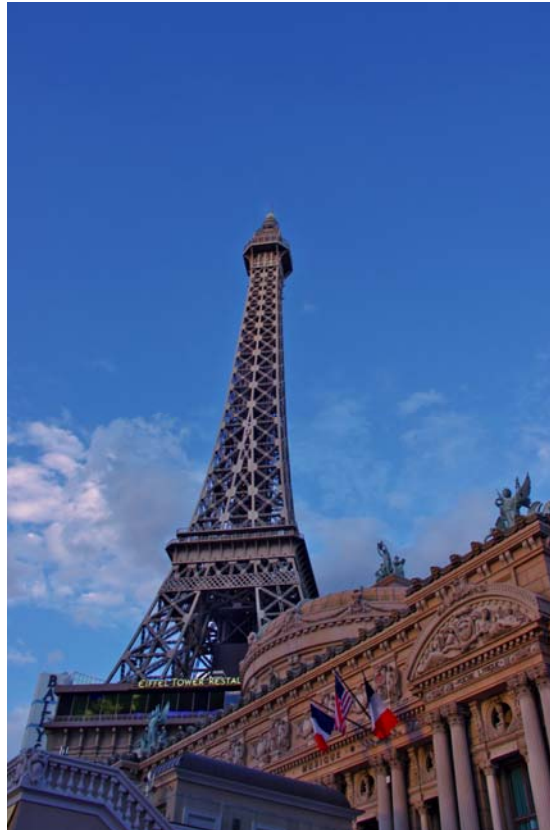
飲茶といっても、種類も量もたくさんありました。上の写真は一部分です。

【 ラスベガスのホテル群 】



ラスベガスはホテルの街、一つ一つのホテルにテーマがあり、競い合っています。ディズニーランドのようです。このホテルはお花の中庭と噴水ショーで有名な「ベラッジオ・ホテル」です。天井からキンレンカのようなたくさんの花が、お客様を迎えます。ここはチェックイン・ロビーです。

【 宿泊するのは「パリス・ホテル」です 】



パリス・ホテルのテーマは一目で分る「パリ」です。凱旋門とエッフェル塔、写真には写っていませんが初めて世界一周した熱気球とを目印にします。ホテル本体のビルはフランス市庁舎の形をしています。場所はメイン・ストリートであるストリップ大通りの「フォー・コーナー」と呼ばれる四つ角で、「ベラッジオ」の向かい側、ベラッジオの噴水ショーがよく見える、ラスベガスの一等地です。

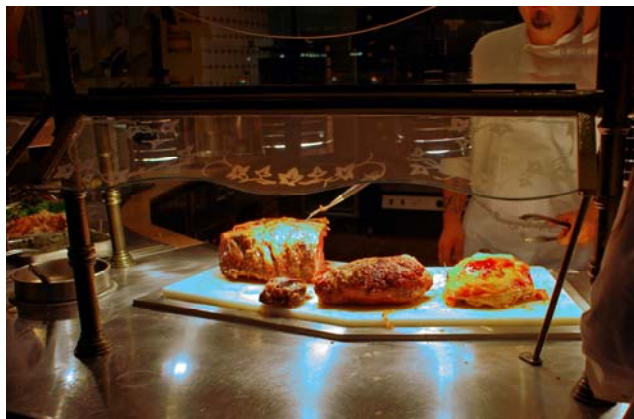


カジノはさらに凝っていて、一日中パリの夕暮れ時が続いています。

チェックイン後、カジノ講座を現地ガイドさんが行いますので、聞いておいて下さい。例えば同じスロットマシンでも、1回 25 セント・1ドル・7ドル等があります。また現金引き換えはその場で当日 ATM を使って引き替えないと、有人窓口での対応になります。 パリス・ホテルでの喫煙はカジノ階(1階)に灰皿が置いてあります。

【 バフェの夕食 】

バフェはバイキング形式の食事なのですが、種類の豊富さや質の高さで、パリス・ホテルは人気です。



(ロースト・ビーフ)



(ムール貝とアサリ)



(ピラフ・玉子他)



(パスタ類)



(カリフォルニア巻き)



(お菓子)

デザートの中に、平べったいプリンがあります。なんということもない姿形の「パリス・ホテルのプリン」は地元っ子のみならず、隣の州の女性も食べたいと言っていました。土産話の一つとして、是非食べておいて下さい。確かに濃厚で美味しかったです。

【 食後の時間はフリー・タイムです 】

パリス・ホテルの中では、カジノやショッピング。（“ Lomo” という女性向け雑貨店は日本人女性が働いていました。）近隣の散歩に出るなら、ベラジオ・ホテルの噴水ショー、ミラーシュホテルの火山噴火ショー。オプションの有料ショーとして、ホテル内シアターにて、アメリカン・ラインダンス・ショー「ジュビリー」（祝祭）をご用意しています。



（パリス・ホテルには歯ブラシと室内スリッパがありませんでした。飲み物は1階、カジノ階のコンビニをご利用下さい。）

4日目

世界遺産グランド・キャニオンを目指します。

【 グランド・キャニオン 】（ アリゾナ州 ）



朝食後、ビジョン航空の出迎えバスに乗って「北ラスベガス空港」へ向かいます。ここはネバダ州の「北ラスベガス空港」、ビジョン航空の玄関前です。ビジョン航空のお客さんは 80%以上が日本人、地上要員はほとんどが日本人女性です。グランド・キャニオンのお土産はこのショップが良いでしょう。お店の人も日本人女性です。

お昼のランチ・ボックスを持って、19 人乗りの小型機でグランド・キャニオン国立公園空港に向かいます。砂漠の上を飛んでいきますから、それも日本では見られない絶景です。飛行機を降りるとアリゾナ州です。



(グランド・キャニオン国立公園空港のビジョン航空ターボ・プロップ双発機)





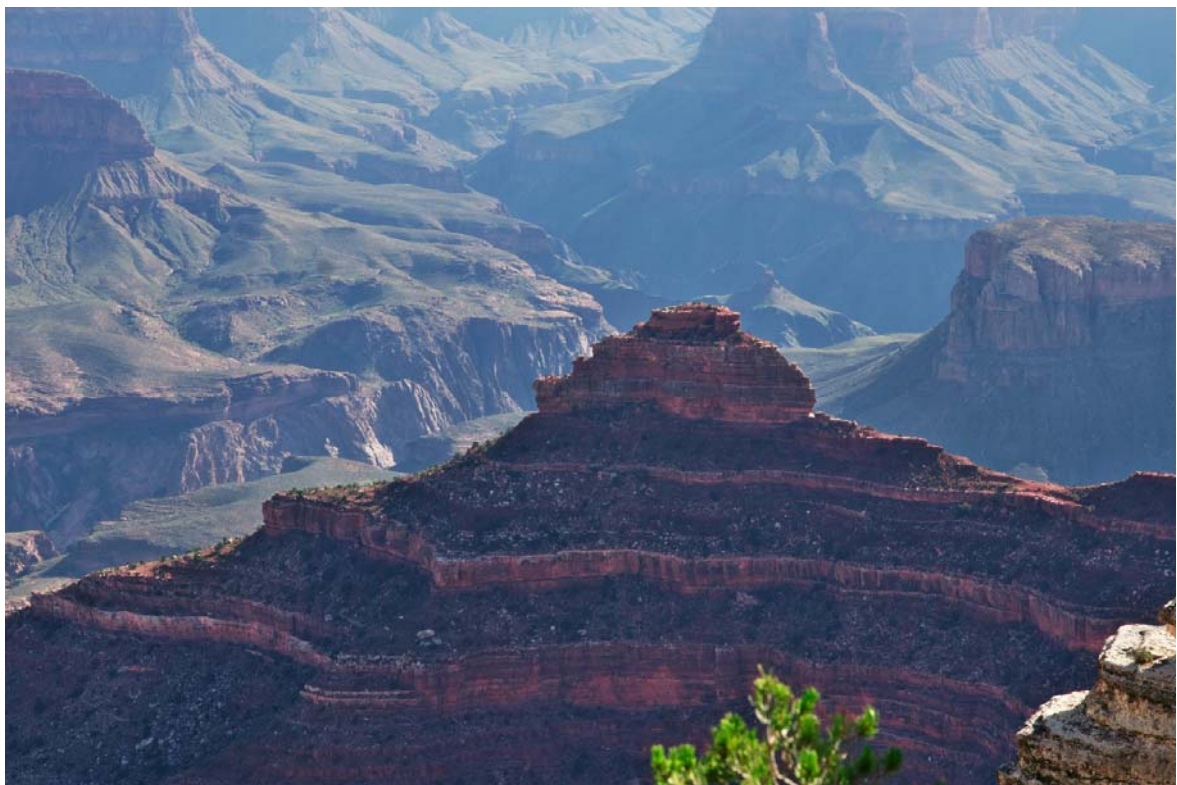
バスに乗り換えて、快調に飛ばしていくと大鹿もお出迎え。画面右端の道端に2頭います。

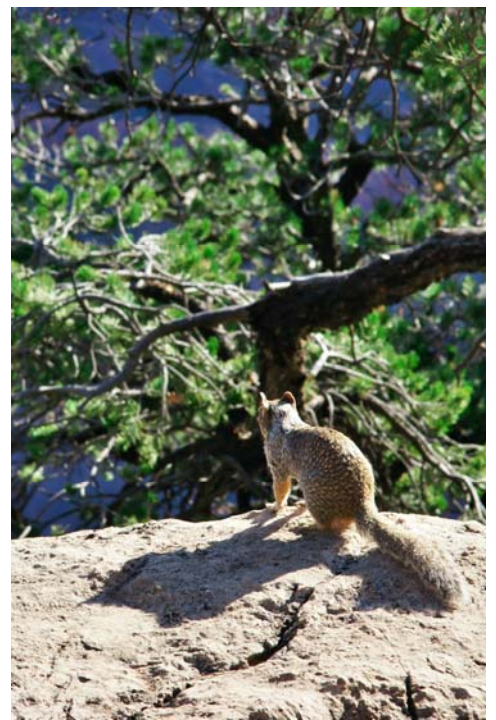


有料道路料金所を通過してマーサーポイントへ。



世界自然遺産、グランド・キャニオン。サウス・リムの「マーサー・ポイント」です。いかにもグランド・キャニオンの絶景。手すりのないところではご注意ください。峡谷の平均的深さは1,200mです。転落事故もあります。観察すると、岩の年齢が日本の山の比ではありません。古い古い岩で積層しており、もろそうです。割れ目にハーケンを打ち込んでも効きそうにありません。たぶんボロリと剥がれてくる、そんな岩肌です。





リスも眺める絶景ですが、リスに手を出すと噛まれます。病原菌もいますし、どう猛ですからご注意ください。

岸壁上にいる彼らは登山客ではなく、普通の観光客です。岩盤の上を歩いている時は下が見えませんが、横から見ていると肝が冷えます。特に前夜、睡眠不足の時はご注意ください！



ブライト・エンジェル・ロッジ展望台です。ビジター・センターがあります。こちらでランチ・ボックスを広げるといいでしょう。飲み物も買えます。



この、日本ならよくありそうな「グランド・キャニオン国立公園」の門標、実は一つしかありません。マーサー・ポイントに行く入り口にあります。画面外に記念撮影の順番待ちの人がたくさんいらっしゃいます。発見したら是非、ここで写真を撮って下さい。

再び、ビジョン航空で北ラスベガスに戻ってくるのは16:45の予定、夕方です。バスでホテルへ。夕食はフェアウェル・パーティーを行います。バスで「セルジオ」に向かいます。「セルジオ」はラスベガス郊外にあって、地元では美味しい店の筆頭に上がってくるイタリアン・レストランです。





店内は地中海の壁画。アメリカではなくイタリアの雰囲気。



海鮮のサラダ。日本人の舌にも美味しいです。



ミネストローネ。

この後、エビのパスタとデザートです。

【 フリーモント・ストリート・エクスペリエンス 】

ホテル街からバスで 30 分程北に「ダウンタウン」エリアがあります。ここは、ラスベガスの元々の街だったのですが、1990 年代にはホテル街に客を奪われた格好になりました。そこで商店街が一念発起。アーケードを LED 照明で覆ってコンピューターで画像を写し出す、フリーモント・ストリート・エクスペリエンスを 1995 年に誕生させると、客足は戻ってきました。毎年 1, 700 万人が訪れます。「ラスベガス、もう一つの必見」と言われるようになったのです。夕食後にご案内します。



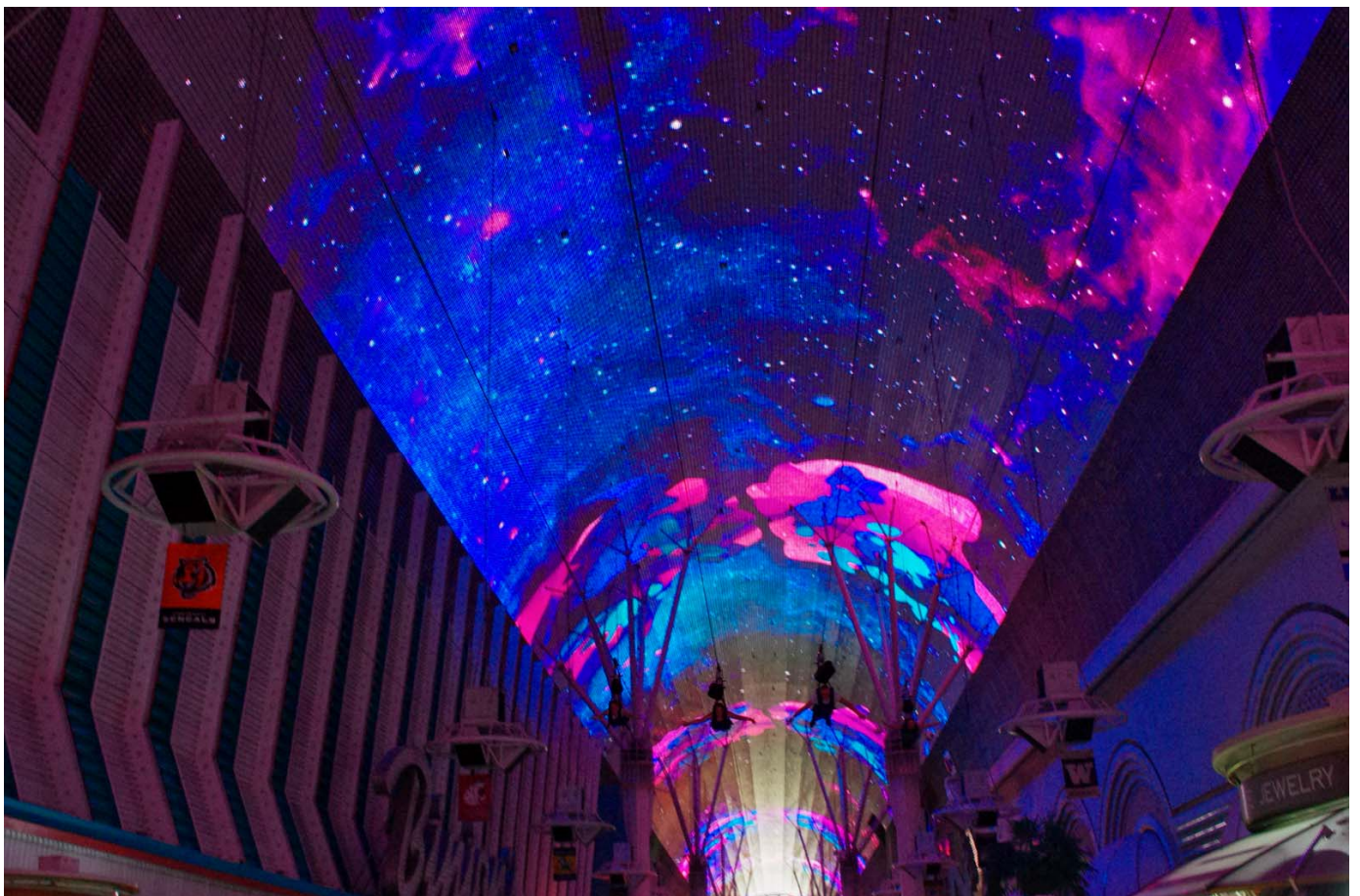
「フォー・クイーンズ」の角、一番賑やかです。この人通りは歩行者天国だからです。



今も変わらぬ人気のプレスリーのショー、もちろんそっくりさんですが見ている人は大喜びです。



お客さんの顔の像を作って壁掛けにしてくれる露店。かなり似ています。



これがフリーモント・ストリート・エクスペリエンス。色とりどりの画像が速い速度で切り替わり、左右に見えている下向きスピーカーで音響効果もすごいのですが、人が空を飛んで来るのには驚かされました。

5. 6 日目

帰国の途に着きます。

【 ラスベガスからサンフランシスコ、さらに成田へ 】

パリス・ホテルチェックアウト後ラスベガス空港へ向かいます。朝が早いため営業している店がなく朝食はお弁当です。空港の待ち時間で食べていただくことになります。空港内には開店しているお店もありました。

ラスベガス 7:50 発のユナイテッド航空 834 便です。使用機材はボーイング 737-900 です。



このラスベガス・サンフランシスコ間のボーイング 737-900 は座席に個人モニター付きでした。飛行時間は約 2 時間です。サンフランシスコ到着は 9:49 予定です。

サンフランシスコで乗り継ぎを行います。





サンフランシスコ 11:10 発ユナイテッド航空 837 便、使用機材は往路と同じボーイング 747-400 です。



機内食が 2 食提供されます。成田に接近してきました。

飛行時間は 11 時間 5 分の予定です。成田の到着予定時間は翌日の午後 15:15 です。お疲れ様でした。

豆知識 1. 《チップ換算表》 米国でのチップの相場は 15～20%で、18%がちょうど良いと言われます。現地の人は、このような換算表が頭に入っていて、支払う時に 15%の金額と 20%の金額のおよその間の金額を払っているそうです。

税抜き料金	15 %	20 %
\$ 5	\$ 0.75	\$ 1.00
\$ 10	\$ 1.50	\$ 2.00
\$ 15	\$ 2.25	\$ 3.00
\$ 20	\$ 3.00	\$ 4.00
\$ 25	\$ 3.75	\$ 5.00
\$ 30	\$ 4.50	\$ 6.00
\$ 35	\$ 5.25	\$ 7.00
\$ 40	\$ 6.00	\$ 8.00
\$ 45	\$ 6.75	\$ 9.00
\$ 50	\$ 7.50	\$ 10.00

*計算するときは税抜き料金を 2 倍して 10 で割り、10%～20%を減じるのが分り易いと思います。

豆知識 2. 《クレジットカードを使う場合》 必ずパスポートの提示が求められますのでご用意下さい。

アメリカ人も免許証の提示を求められていますからカードの正当な所持人かどうかを見ているようです。

◆平成 27 年の海外旅行をご紹介します、是非ご参加下さい！！

【実施日程】 第 1 班 11 月 1 日(日)～11 月 6 日(金)

第 2 班 11 月 22 日(日)～11 月 27 日(金)

第 3 班 11 月 27 日(金)～12 月 2 日(水)

【募集人員】 100 名

【旅行代金】 438,000 円(2 名 1 室)

*上記料金には、燃油特別付加運賃・各国航空諸税を含みます。但し、原油価格および為替レートに大幅な変動が生じた場合は、追加代金を申し受けます。3 名一室の設定はございません。

【1 名様で 1 室をご利用の場合】追加料金 90,000 円(4 泊分)がかかります。

【募集締切】 各出発日の 35 日前まで

【利用航空会社】 ユナイテッド航空(UA)

【ビジネスクラス利用の場合】(追加代金についてはお申し込み後の手配・料金となります)

50 万円～65 万円前後(先着順) ビジネスクラスは国際線区間のみのお手配となります。

【旅券残存必要期間】 入国時より 90 日間以上

【電子渡航認証】 アメリカに入国する際は、ESTA(電子渡航認証)が必要になります。

ESTA 申請料実費、約 1,800 円+渡航手続き代行料 4,320 円にて、代行取得も可能です。

[調査・調整]

東京シティ信用金庫 理事業務部長

渡邊 正之



西鉄旅行株式会社 東京支店 グループリーダー

中原 史貴



<http://www.shinkin.co.jp/to-city/>